

中 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究内容	4
VI	研究の成果	23
VII	今後の課題	24

## 研究主題

# 社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成を目指して

～社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」の工夫～

## I 研究主題設定の理由

社会科の指導に当たっては、(1)「知識及び技能」が習得されること、(2)「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、(3)「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。

中学校学習指導要領（平成29年3月）で示された「深い学び」とは、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成28年12月21日）によると、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」ことであると定義されている。

「深い学び」の実現のためには、社会的な見方・考え方をを用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり、解決したりする活動が不可欠である。この「深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるためには、社会科における各分野の特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶことにより、事実等に関する知識を相互に関連付けて概念に関する知識を獲得したり、社会的な事象からそこに見られる課題を見いだしてその解決に向けて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにし、主体的に社会に関わろうとする態度を養うようにしたり、生徒同士の協働や学習の内容に関係する専門家などとの対話を通して自らの考えを広め深めたりすることなどが必要である。

しかし、現行の中学校学習指導要領（平成20年3月）でも言語活動の充実が求められ、授業実践や指導方法の開発が行われてきたが、一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的な事象の特色や意味などについて比較したり、関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。また、社会的な見方・考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないことや、近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること、課題を追究したり、解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと等も指摘されている。（「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成28年12月21日））

東京都においては、中学校社会科「平成29年度教育研究員研究報告書」から、「深い学び」の実現に向けた授業が十分に行われてこなかった原因として、社会的な見方・考え方を単元の中でどのように位置付けるのかが明確でなかったり、系統立てた単元の指導計画を立てられなかったりしたことで、思考力、判断力、表現力等を十分に育成できなかったことなどが挙げられた。

そこで、本研究では、指導計画を作成する際に社会的な見方・考え方を働かせることがで

きる単元を見通した「問い」を設定し、「問い」に対する自分の考えをまとめるために、多面的・多角的に考察・構想し、実現できるようにすることが「深い学び」につながると考えた。そして、「深い学び」を実現するための「問い」を整理し、「問い」を意識した授業改善を継続的に行うことで、生徒の社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等を高めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究の視点

本研究は、教科や分野、単元のねらいを達成するために、中学校社会科の指導の改善・充実を図ることを目的として、研究主題を「社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成を目指して～社会的な見方・考え方を働かせることができる『問い』の工夫～」と設定した。

「深い学び」の実現のためには、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした「問い」の設定を通して個別の事実等に関する知識のみならず、社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するような学習を設計することが求められる。

このことから、指導計画を作成する際に単元を見通した「問い」を設定し、「問い」に対する自分の考えをまとめるために多面的・多角的に考察・構想し、実現できるようにすることが「深い学び」につながると考え、「問い」を設定することの重要性に着目した。

そこで、次の2点を研究の視点とし、学習指導の工夫を行った。

### 1 単元の指導計画の工夫

単元を見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かすことができる系統的な単元の指導計画を作成する。その際、単元構造図を示したワークシート「単元見通シート」を授業で活用する。

### 2 社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」を取り入れた授業展開

社会的な見方・考え方を働かせることができる、単元を見通した「問い」と本時の「問い」を計画的に取り入れ、「問い」に対する自分の考えをまとめる学習活動を行うことで、「深い学び」の実現に向けた授業を展開する。

## III 研究仮説

社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」を単元の指導計画に効果的に位置付け、単元全体で構造化すれば、社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等を高めることができるだろう。

中学校学習指導要領（平成29年3月）の考え方として示された「深い学び」の実現に向けた学びの過程の例は次のとおりである。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、目的や状況等に応じて互いの考え

を伝え合うことで多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程

- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

以上を踏まえ、これらの過程において社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」を設定することが、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するために重要であると考えた。

そこで、本研究では、単元の指導計画を作成するに当たり、単元の内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、単元の中で構造化する指導を行う。

「問い」については、「単元を見通した『問い』」と「社会的な見方・考え方を働かせることができる『問い』」の二つとする。「単元を見通した『問い』」は、単元全体で考え続ける「問い」であり、単元の最後に「問い」に対する自分の考えをまとめる。「社会的な見方・考え方を働かせることができる『問い』」は、各授業の学習課題であり、社会的な見方・考え方を働かせながら解答する。「単元を見通した『問い』」を解決するために、「社会的な見方・考え方を働かせることができる『問い』」を単元全体で構造的に配置し、単元を設計する。

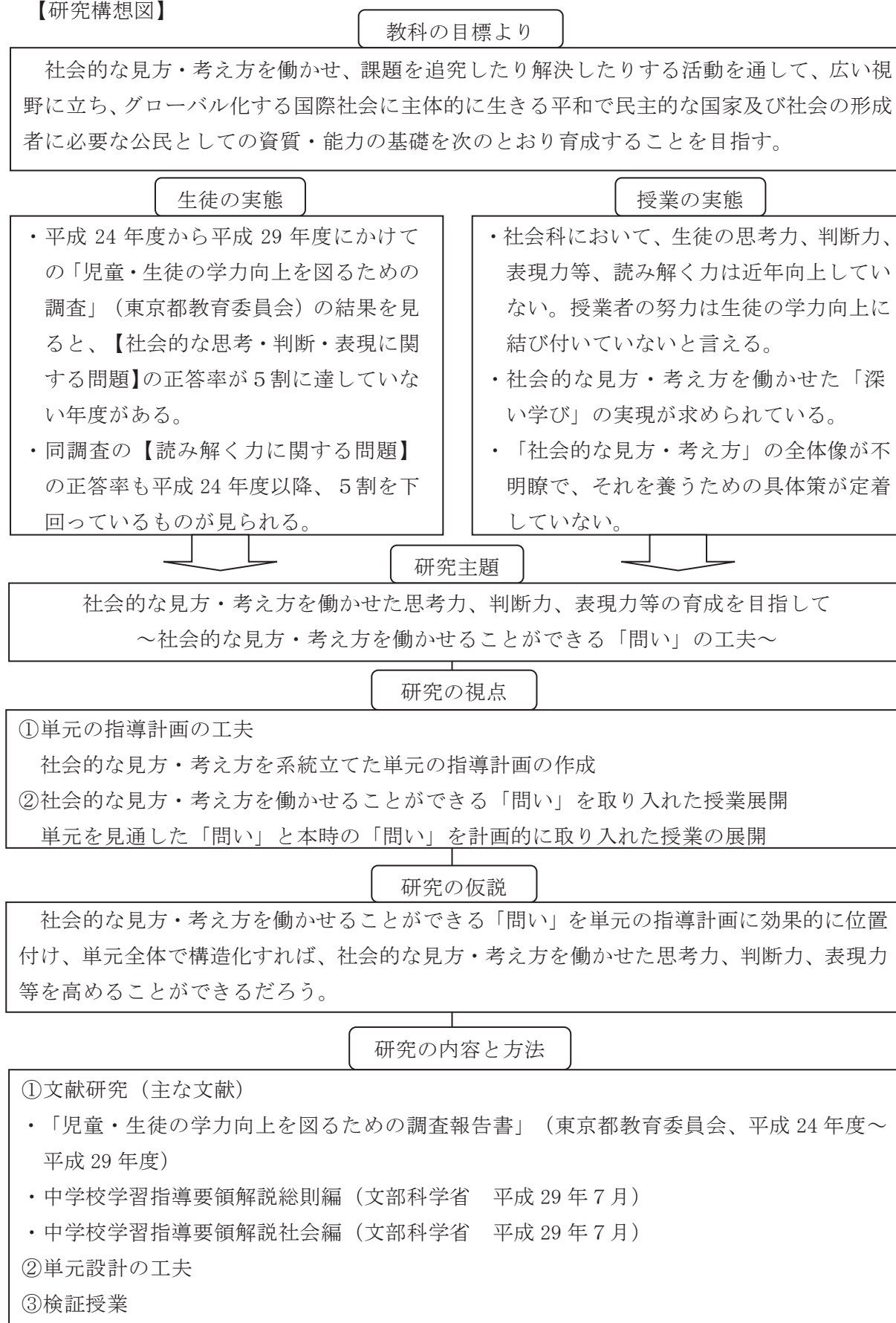
そして、思考の過程を可視化することで、生徒が社会的な見方・考え方を身に付け、自在に働かせることができ、社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等を高め、「深い学び」の実現を図るために有効であると考え、研究仮説とした。

#### IV 研究方法

- 以下の資料を参考に文献研究を行う。
  - ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」（東京都教育委員会、平成24年度～平成30年度）
  - ・「都立高校入学者選抜の学力検査結果に関する調査報告書」（東京都教育委員会、平成24年度～平成29年度）
  - ・中学校学習指導要領（文部科学省 平成29年3月）
  - ・中学校学習指導要領解説総則編（文部科学省 平成29年7月）
  - ・中学校学習指導要領解説社会編（文部科学省 平成29年7月）
  - ・「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」（文部科学省 平成28年8月26日）
  - ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省 平成28年12月21日）
- 単元設計を工夫する。
  - ・単元を見通した「問い」の設定
  - ・社会的な見方・考え方を働かせることができる本時の「問い」による単元の構造化
  - ・構造化された単元を見通したワークシート「単元見通シート」の作成と活用
- 検証授業や各学校における取組で得られた成果と課題をまとめる。

## V 研究内容

### 【研究構想図】



## 1 思考力・判断力・表現力等を育成する学習指導について

東京都教育委員会が実施した平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の学校質問紙調査では、質問項目「5 指導に関わる事項について」の全てにおいて、前年度の同程度の割合で肯定的な回答をしている（平成28年度88%、平成29年度89%）が、生徒の正答率の向上に十分につながっていない。

同調査の【社会的な思考・判断・表現に関する問題】の正答率を見ると、平成27年度と平成28年度にかけては5割に達したが、平成29年度の調査では再び5割を切る結果であった。また、同調査が経年で比較している【読み解く力に関する問題】の正答率も、平成24年度以降5割前後で推移している。

「都立高校入学者選抜の学力検査結果に関する調査報告書」でも同様の傾向が読み取ることができる。平成25年度から平成30年度までの東京都立高等学校入学者選抜学力検査を振り返ると、大問6は、諸資料を基にして社会的事象を多面的・多角的に考察する能力をみる総合問題であり、平成27年度以降は正答率が5割前後で推移し、平成30年度では38.8%となっている。

また、中学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）において述べられている現行学習指導要領（平成20年3月）の成果と課題「主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている」ことも踏まえると、社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成を図る必要があると考える。

本研究では、単元を見通した「問い」を設定し、単元構造図を示したワークシート「単元見通シート」を活用しながら学習の見通しを立てることで生徒の思考の過程が明確になるようにする。その上で社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握しその解決に向けて構想したりする学習を行うことで、「深い学び」を実現するための思考力、判断力、表現力等の育成を図りたい。

## 2 社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」について

### (1) 単元を見通した「問い」の設定

本研究では、単元を見通した「問い」を単元の指導計画を作成する際の軸とする。単元の導入で単元を見通した「問い」を生徒に提示し、既習事項などを基に「問い」に対する予想をするが、この時点では主観的、一面的であったり、根拠のないものであったりすると考えられる。しかし、社会的な見方・考え方を働かせた学習を進めていくことで、単元のまとめの段階では、導入時と比べて多面的・多角的に考察したり、新たな視点や概念を述べたりすることができるようになると思う。さらに、思考力、判断力、表現力等の深まりを自覚（メタ認知）する振り返りも同時に行い、「どのような思考過程を経て、その解答に至ったのか」を記述することで、自分の思考を客観的に捉えることができる。本研究で示す学習の流れを次のページの【表1】にまとめた。このプロセスで学習を行うためには、単元の目標から出発して、一つ一つの授業を組み立てていく必要がある。

【表1】本研究における学習の流れ

1 単元の導入	単元を見通した「問い」に対する予想をする。
2 社会的な見方・考え方を働かせる単元構成	ワークシート「単元見通シート」を活用しながら学習を進める。
3 単元のまとめ	単元を見通した「問い」に対する自分の考えをまとめる。
4 振り返り	自分の記述の変容や思考過程を自覚する。

単元を見通した「問い」を作成するに当たり、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成28年12月21日）において示された「深い学び」に関する以下の記述を援用する。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

単元を見通した「問い」を作成する際の工夫について、【表2】に整理した。  
【表2】の①～④を基にして単元を見通した「問い」を作成し、単元設計の軸とする。単元を見通した「問い」は、一問一答や調べてすぐに解決できる「問い」ではなく、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて思考し、判断し、適切に表現できる「問い」とする。

【表2】単元を見通した「問い」を作る際の工夫（視点）

○知識を相互に関連付ける	→	①多面的・多角的に考察する「問い」
○情報を精査し考えを形成する	→	②原因や理由を追究する「問い」
○問題を見いだして解決策を考える	→	③生徒の生活や将来に関わる「問い」
○思いや考えを基に創造する	→	④価値判断を迫る「問い」

(2) 社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」の工夫

社会的な見方・考え方については、平成29年度の教育研究員報告書（中学校社会）に整理されているが、本研究では「問い」によって単元の指導計画を設計するという点を重視し、単元の各時間での「問い」に取り組む際、社会的な見方・考え方を働かすための指導を行う。その際の「問い」の例を次のページの【表3】にまとめた。

生徒が授業において、社会的な見方・考え方を働かせて出した答えが、単元を見通した「問い」にどのように関わっているかを確認しながら考察や構想に向うことができるよう、単元構造図を示したワークシート「単元見通シート」の作成と活用に取り組む（ワークシート「単元見通シート」については、検証授業の項で示すこととする。）。このワークシート「単元見通シート」は、生徒が見通しをもって授業に臨むことができ、授業者と生徒の双方が単元や内容のまとまりを意識して学習に取り組むことができるようになる。また、社会的な見方・考え方を働かせて自分の考えをまとめる「問い」によって単元が設計されているため、単元のまとめを行う際に多面的・多角的な考察や構想が可能となると考える。



【表 3】 社会的な見方・考え方を働かせることができる、「考えられる」視点の例と「問い」の例

	考えられる視点の例	「問い」の例
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的、規則性・傾向性、地域差など</li> <li>○場所に関わる視点 自然的、社会的など</li> <li>○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全など</li> <li>○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性など</li> <li>○地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは、どこに位置するか</li> <li>・それは、どのように分布しているか</li> <li>・そこは、どのような場所か</li> <li>・どこにあるべきか</li> <li>・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているか</li> <li>・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているか</li> <li>・そこは、他の場所とどのような関係をもっているか</li> <li>・その地域は、どのような特徴があるか、どのように広げるべきか</li> <li>・どのような場所とするべきか</li> <li>・どのような自然の恩恵を求めべきか</li> <li>・どのように自然に働きかけるべきか</li> <li>・他の場所とどのような関係をもつべきか</li> <li>・どのような地域となるべきか</li> </ul>
歴史的 分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時系列に関わる視点 時期、年代など</li> <li>○諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続など</li> <li>○諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、特色など</li> <li>○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、どこで、誰によって起こったか</li> <li>・前の時代とどのように変わったか</li> <li>・どのような時代だったか</li> <li>・なぜ起こったか、何のために行われたか</li> <li>・どのような影響を及ぼしたか</li> <li>・なぜそのような判断をしたと考えられるか</li> <li>・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のためにどのようなことが必要とされるか</li> </ul>
公民的 分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性など</li> <li>○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の社会にはどのような特色があるか</li> <li>・国や地方公共団体はどのような役割を果たしているのか</li> <li>・なぜ法に基づいて政治が行われることが大切なのか</li> <li>・よりよい決定の仕方とはどのようなものか</li> <li>・民主政治をよりよく運営していくためにはどのようなことが必要か</li> <li>・地球上にはどのような問題が存在し、その解決に向けて国際社会はどのような取組を行っているか、今後どのようなことができるか</li> </ul>

### 3 検証授業

#### (1) 地理的分野

- ア 単元名 (2) 日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (7) 自然環境を中核とした考察「九州地方」

## イ 単元の目標

- ・九州地方について関心をもち、地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を意欲的に学習し、九州地方の地域的特色や地域の課題について追究する。
- ・九州地方について、地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として人々の生活や産業などに関する事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、九州地方の地域的特色や地域の課題を適切に表現する。
- ・九州地方の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力に関する資料等の読み取りや比較・関連付けなどの学習活動を通して、九州地方の地域的特色や地域の課題をまとめる。
- ・九州地方の地域的特色や地域の課題について、人々の生活や産業などに関する事象と関連付けて理解し、その基礎的・基本的な知識を身に付ける。

## ウ 単元の評価規準

ア 社会的な事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的な事象についての知識・理解
①九州地方について関心をもち、地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を意欲的に学習し、九州地方の地域的特色や地域の課題について追究している。	①九州地方について地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、人々の生活や産業などに関する事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、九州地方の地域的特色や地域の課題を適切に表現している。	①九州地方の地形や気候の特色について、必要な情報を集め、読み取っている。 ②自然災害と防災への努力に関する資料の読み取りや比較・関連付けなどの学習活動を通して、九州地方の地域的特色や地域の課題についてまとめている。	①九州地方の地域的特色や地域の課題について、その基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ②九州地方の地域的特色や地域の課題について、人々の生活や産業などに関する事象と関連付けて理解している。

## エ 単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年3月）地理的分野の内容(2)ウ 日本の諸地域、(ア) 自然環境を中核とした考察及び内容の取扱い(4)ウに沿って設定した。本単元のねらいは、自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり、解決したりする活動を通して、九州地方の地域的特色や地域の課題を理解させることである。そして、九州地方において自然環境に関する特色ある事象を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することである。その際に、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで捉えるという社会的な見方・考え方の基本を身に付けさせることが重要となる。

それを踏まえて本単元における単元を見通した「問い」を、「九州地方の自然環境にはどのような課題があり、どのように自然環境を生かせばよりよい生活ができるか」とした。九州地方は、東京都に住む生徒にとって身近な地域ではないものの、近年、火山の噴火や大雨の被害など自然災害の大きな被害が報道され、九州地方の自然環境に関する情報に触れる機会が増えてきた。そこで、本単元では、自然災害の被害が多い九州地方で暮らす人々

の生活や防災対策等から、人々がこれまでどのように自然環境と関わってきたのかを理解し、未来に向けて何ができるか構想するという流れで単元を構成した。本単元の学習を通して「持続可能な社会」を実現しようとする視点をもたせ、社会的事象をどのように捉え行動するとよりよい社会になるのかを念頭におき、課題を解決する力を育成する指導を行いたい。

オ 単元指導計画と評価計画

(7) 単元指導計画と評価計画（5時間扱い）

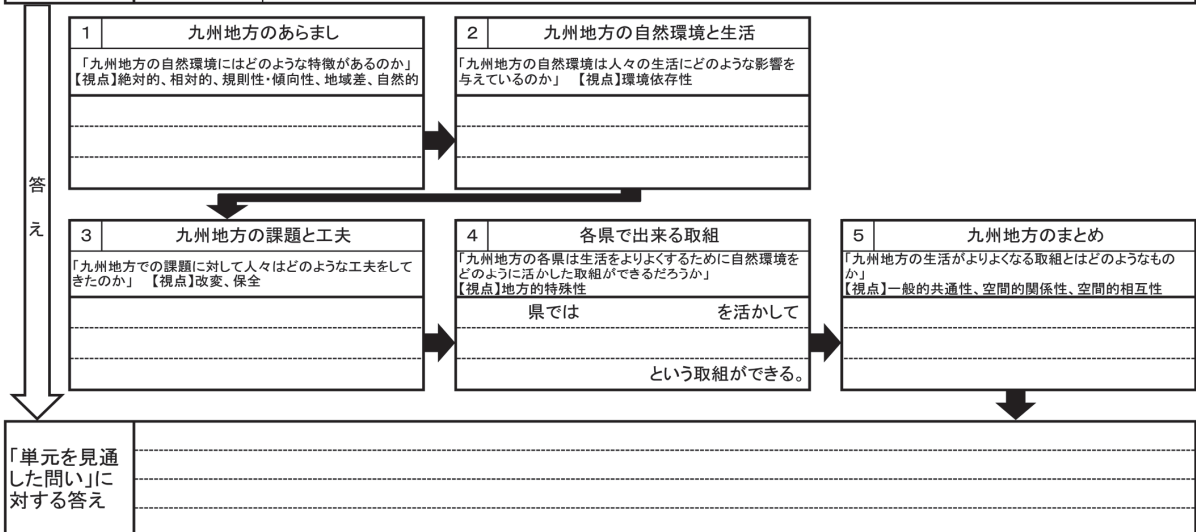
	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
<b>単元を見通した問い</b> 「九州地方の自然環境にはどのような課題があり、どのように自然環境を生かせばよりよい生活ができるか」			
第1時	地図やグラフ、写真などから九州地方の地形、気候の様子を読み取り、九州地方のあらましについて関心をもつ。	<b>本時の問い</b> 九州地方の自然環境にはどのような特徴があるのか。 【社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる際の視点】：絶対的位置、相対的位置、分布の規則性・傾向性、地域差、自然的特色 ・九州地方の地形と気候の様子を、教科書や資料集から読み取る。 ・「九州地方の自然環境にはどのような課題があり、どのように自然環境を生かせるとよりよい生活ができるか」という問いについて本時の内容を基に予想をする。	アー① 九州地方の地域的特色について関心をもって追究し、意欲的に自分の意見を述べている。 (ワークシート・発言内容)
第2時	九州地方の自然環境と人々の生活との関わりについて理解する。	<b>本時の問い</b> 九州地方の自然環境は人々の生活にどのような影響を与えているのか。 【社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる際の視点】：環境依存性 ・九州地方の自然環境が人々の生活に対して与える良い影響と悪い影響を産業や生活様式などの資料から読み取る。	ウー① 資料から九州地方の自然環境についての地域的特色を読み取ることができている。 (机間指導・ワークシート) エー① 読み取った資料に基づいて、九州地方の自然環境についての地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 (机間指導・ノート)
第3時	九州地方が抱える自然環境に関わる課題と人々の対応について、資料から読み取る。	<b>本時の問い</b> 九州地方での課題に対して人々はどのような工夫をしてきたのか。 【社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる際の視点】：改変、保全 ・教科書や資料集から、九州地方が抱える自然環境や環境保全の課題について、現在の状況と対策を読み取りまとめる。	ウー② 自然災害と防災への努力に関する資料の読み取りや比較・関連付けなどの学習活動を通して、九州地方の地域的特色や地域の課題についてまとめている。 (机間指導・ワークシート)

第4時 (本時)	九州地方における自然環境との関わり方について多面的・多角的に考察する。	<b>本時の問い</b> 九州地方の各県は、生活をよりよくするため、自然環境をどのように活かした取組ができるだろうか。 【社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる際の視点】：環境依存性 ・九州地方の各県において、人々の生活が持続可能なものとなるためにどのような取組をしていけばよいか、八つのグループで分担して具体的な取組を考える。	イー① 九州地方における自然環境との関わり方について、複数の立場や側面から具体的に考察し、表現している。 (机間指導・ワークシート)
第5時	これまでの学習を通して、九州地方の地域的特色を自然環境との関わりに着目して多面的・多角的に考察する。	<b>本時の問い</b> 九州地方の生活がよりよくなる取組とはどのようなものか。 【社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせる際の視点】：環境依存性、空間的關係性、空間的相互性 ・前時で考えたことをグループで発表し合い、発表の結果の共通点をグループで検討する。 ・挙げられた共通点を組み合わせて、九州地方における人々の生活が持続可能なものとなるための取組を考え、地域的特色をまとめる。	イー① 九州地方の自然環境と人々の生活との結び付きについて、複数の地域の事例や立場から考察し、表現している。 (発表内容・ワークシート) アー① 第1時と比較して、九州地方の地域的特色について関心をもって追究し、九州地方での持続可能な生活について意欲的に自分の意見を述べている。 (ワークシート・発言内容)

(イ) 本単元の「<sup>みとお</sup>単元見通シート」

単元見通シート

単元名	日本の諸地域① 九州地方	2年 組 番 ( )
単元の目標	自然環境を中核とした考察を通して、九州地方の地域的特色を理解する。	
単元を見通した問い	九州地方の自然環境にはどのような課題があり、どのように自然環境を活かせばよりよい生活ができるか	
	学習を始める前の自分の考え(予想)	



カ 本時 (全5時間中の第4時)

(ア) 本時の目標

九州地方における自然環境との関わり方について、多面的・多角的に考察する。

(イ) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・ 配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	○前時までの学習内容を振り返る。 ・前時までに学習した、九州地方における課題に対する人々の工夫について確認する。 ・本時の問いを確認する。	・本時の学習目標を板書する。 ・ワークシートを配布する。	
	九州地方の各県は、生活をよりよくするため、自然環境をどのように生かした取組ができるだろうか。		
展開 ① 10分	○九州地方の各県の担当を8班(各班4～5人)で分担して決め、その県が克服すべき自然環境についての課題を挙げる。 ・配布した資料を基に、自然環境がその県の生活、文化、産業などに与える課題について意見を出し合う。		
展開 ② 10分	○担当した県が抱える課題を克服するため、自然環境をどのように生かせばよいかを考える。 ・展開①で挙げた克服すべき課題の一つに絞り、その課題に対して住民、県庁や産業に関わる人々などの立場に立って、自然環境をどのように生かせばよいか、個人で考える。	・課題に取り組みづらい生徒には、机間指導により、本単元の学習内容を参考にするよう助言する。	
展開 ③ 10分	○展開②で考えた内容を共有する。 ・班内でそれぞれが考えた意見を発表し、他者の発表内容をノートに記述する。	・ノートには、発表内容の全てを書くのではなく、要点のみを記述するように確認する。	

まとめ 10分	○担当した県が抱える課題を克服するため、自然環境をどのように生かせばよいか、班の考えをまとめる。 ・次回の授業で発表するため、班で意見をまとめ、ワークシートに記述する。 ・「 <u>単元見通シート</u> 」に要点を記入する。	・次回の授業で発表できるように、それぞれの班を回り支援する。	イー① 九州地方における自然環境との関わり方について、複数の立場や側面から具体的に考察し、表現している。 (机間指導・ワークシート)
------------	---	--------------------------------	---

## キ 成果と課題

### (7) 成果

生徒が学習する際、「単元見通シート」を見返して既習事項を振り返るなど、「単元見通シート」を活用しながら学習に取り組む姿が見られた。記述された内容から、194人中170人の生徒が毎時間の振り返りで、社会的な見方・考え方を働かせる際の視点をういて記述することができた。

また、毎時間の「問い」に対する答えを積み重ねることで、単元を見通した「問い」に対する答えが社会的な見方・考え方を働かせた、より深い内容になるという変化が194人中74人の生徒で見られた。例えば、第1時において、単元を見通した「問い」に対して、

南にあり気温が高いので、冬に夏の野菜を育てて売ることができる。

という記述をした生徒が、第5時（単元のまとめ）には、

九州地方の南北で得意な農業が違う。このことからそれぞれ得意な農業を生かして、南北で助け合って補い合えばよい。

と【空間的關係性、空間的相互性】の視点をういることができていた。また、

九州地方は季節風と暖流の影響で気温が高く降水量が多いので、緑が豊かだったり、温泉が湧いたり、東京にはない自然があると思う。

という記述した生徒が単元のまとめ時には、

噴火や台風の影響を受けやすいことが課題であるが、火山灰の新たな利用方法を研究したり、促成栽培を、一つの県だけでなく、九州地方全体の農業の利益を上げたりするなど、自然環境を生かした産業に力を入れればよいと思う。

と【環境依存性、空間的關係性、空間的相互性】の視点をういることができていた。

### (4) 課題

「単元見通シート」の「単元を見通した『問い』に対する答え」の記述を見ると、単元指導計画で設定した社会的な見方・考え方をういて十分に記述できていない生徒が194人中120人と6割を超えていた。毎時間の振り返り際には、社会的な見方・考え方を働かせた記述ができていたにもかかわらず、「単元を見通した『問い』に対する答え」に対しては、社会的な見方・考え方をういた記述が十分に見られなかった。単元のまとめの場面で生徒が身に付けた社会的な見方・考え方を表出できるようにすることが課題として挙げられる。この課題を解決するための具体的な手だてとして、どのような「問い」が社会的な見方・考え方をういて答えるために有効なのか、単元を見通した「問い」について更に検討していく必要がある。また、どのように社会的な見方・考え方を働かせるのかを、ルーブリックを設定して評価の基準を示すという方法も考えられる。

以上の2点を踏まえて、生徒が単元を見通した「問い」に対して答えることができるようになれば、生徒は、社会的な見方・考え方を自在に働かせることができるようになり、生徒の思考力、判断力、表現力等の向上につながると考える。

## (2) 歴史的分野

ア 単元名 (3) 中世の日本 ア 武士の台頭と鎌倉幕府

イ 単元の目標

- ・武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世に移り変わった社会の変化について関心をもち、意欲的に追究する。
- ・武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世へ変化する過程について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。
- ・武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響に関する資料を適切に選択して、読み取ったりまとめたりする。
- ・武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本の社会に与えた影響について理解し、その知識を身に付ける。

ウ 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①古代から中世に移り変わった社会の変化について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。	①武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が社会に与えた影響について、資料や話し合いを基に、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 ②古代から中世に移り変わった社会の変化の過程を、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。	①武士の台頭から、政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め読み取ったりまとめたりしている。	①武士の台頭から、政治への進出、武家政権の成立とその影響について理解し、その知識を身に付けている。

エ 単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年3月）歴史的分野の内容(3) 中世の日本、ア及び内容の取扱い(1)イに沿って設定した。ただし、現行の中学校学習指導要領（平成20年3月）に基づいた本校の使用教科書（東京書籍『新編 新しい社会 歴史』）で「武家政治の成立」と「元寇」を別節で取り扱っていることなどを考慮して、「武家政治の成立」のみで単元を構成した。

「社会的な見方・考え方」の一つに「諸事象の比較に関わる視点」（類似、差異、特色など）があるが、中世の日本の特色を考察する上で、一つ前の時代である古代の日本との比較という視点も有効である。よって、本単元を中項目(3)「中世の日本」の導入と位置付け、生徒が古代の日本（＝天皇・貴族中心の世の中）から中世の日本（＝武士中心の世の中）

に転換する様子を捉えることができるようになることを意図し、単元の目標を設定した。

時代が転換する様子を捉えさせる上で、転換点をどこに置くかという選択・判断は有効な視点である。よって、本検証授業では、生徒に単元の目標を達成させるための単元を見通した「問い」を、「どの時点で武士中心の世の中が始まったと言えるだろうか」と設定した。この単元を見通した「問い」を中心に、毎時の本時の「問い」と関連付け、単元全体を構造化した。生徒は、武士の成長の過程を古代の日本との比較を通して捉えていく中で、多面性としての「政治制度、人々の暮らしの様子、宗教や文化」、多角性としての「武士と貴族、幕府と朝廷」という視点から、古代から中世への転換の様子に気づき、深い考察ができるようになることが期待される。

#### オ 単元の指導計画と評価計画

##### (7) 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
	<b>単元を見通した問い</b>	<b>「どの時点で武士中心の世の中が始まったと言えるだろうか」</b>	
第1時 (本時)	古代から中世の日本を概観し、学習前の武士の時代のイメージを明らかにする。	<b>単元を見通した問い</b> どの時点で武士中心の世の中が始まったと言えるだろうか ・小学校での既習事項を確認して、武士中心の世の中での始まりを予想する。	アー① 古代から中世に移り変わった社会の変化について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。(「単元見通シート」への取組の様子と記述)
	武士が摂関家に仕え、地方へ土着する中で武士団として組織された過程を読み取る。	<b>本時の問い</b> 武士はどうやって力をつけていったのだろうか 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：展開、変化、継続 ・武士の成長過程を、源満仲の生涯（年表）から読み取ることで捉える。	ウー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。(ワークシートの考察欄への記述)
第2時	武士が政治の実権を握った過程について、平清盛のねらいに注目して捉える。	<b>本時の問い</b> 政治の実権を握った平清盛と藤原道長の類似点は何だろうか 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：類似、特色 ・平清盛は官位を高め、天皇と血縁関係を結ぶことで、朝廷内で権力を強めたことを、資料から読み取る。	ウー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。(ワークシートの考察欄への記述)
第3時	鎌倉幕府の成立過程について、源頼朝のねらいに注目して捉える。	<b>本時の問い</b> 鎌倉幕府と朝廷の支配の仕組みの違いは何か 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：差異、特色 ・源頼朝は朝廷とは全く別の組織の鎌倉幕府を開くことで、武士独自の政権をつくり、朝廷と並び立とうとしたことを、幕府と朝廷の組織図を比較することから読み取る。	ウー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。(ワークシートの考察欄への記述)



第4時	承久の乱後に西日本にも地頭が置かれたことを捉え、鎌倉幕府と朝廷の力関係について、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現する。	<b>本時の問い</b> 承久の乱は鎌倉幕府と朝廷の力関係にどのような影響を及ぼしたのだろうか 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：結果、影響 ・承久の乱によって鎌倉幕府の力が朝廷を上回ったことを、地頭の分布や六波羅探題の設置から考察する。	イー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が社会に与えた影響について、資料や話し合いを基に、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 (ワークシートの考察欄への記述)
第5時	鎌倉時代の文化・宗教の特色を捉え、それらが広まった理由について、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現する。	<b>本時の問い</b> 武家政権になったことは、鎌倉時代の仏像にどのような影響を及ぼしたのだろうか 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：背景、影響 ・鎌倉時代の文化・宗教に武士の気風が影響を与えていることを、鎌倉時代の仏像と奈良時代・平安時代の仏像を比較することから考察する。	イー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が社会に与えた影響について、資料や話し合いを基に、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 (ワークシートの考察欄への記述)
第6時	古代から中世に移り変わった日本社会の変化の様子を、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現する。	<b>単元を見通した問い</b> どの時点で武士中心の世の中が始まったと言えるだろうか 【社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせる際の視点】：展開、変化、継続 ・古代から中世への転換の様子を、多面的・多角的に考察し、生徒各々が自らの判断基準で「武士中心の世の中の始まり」について考えを述べ、その理由を表現する。	エー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について理解し、その知識を身に付けている。(「単元のまとめ」プリントへの取組) イー② 古代から中世に移り変わった社会の変化の過程を、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。(「単元見通シート」への記述)

(イ) 本単元の「単元見通シート」

単元見通シート

1年 組 番 氏 名

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世に移り変わった日本社会の変化の様子について関心をもち、意欲的に追究する。</li> <li>武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響や、古代から中世へ変化する過程について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。</li> <li>武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響に関する資料を適切に選択して、読み取ったりまとめたりする。</li> <li>武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立が日本社会に与えた影響について理解し、その知識を身に付ける。</li> </ul>	学習を終えて(新たな疑問 / 次の単元で知りたいこと など)
単元を見通した問い	どの時点で武士中心の世の中が始まったと言えるだろうか。 学習を始める前に(「単元を見通した問い」の答えを予想してみよう)	

答え

<p>第1時 「武士の成長」 ▶ 武士は、どのようにして力を付けていったのだろうか【視点：推移】</p> <p>考察</p> <p>.....</p>	<p>第2時 「武士政権の成立」 ▶ 政治の実権をにぎった平清盛と藤原道長の類似点は何だろうか【視点：比較】</p> <p>考察</p> <p>.....</p>	<p>第3時 「鎌倉幕府の成立と執権政治」 ▶ 鎌倉幕府と朝廷の支配の仕組みの違いは何だろうか【視点：比較】</p> <p>考察</p> <p>.....</p>
<p>第4時 「武士と民衆の生活」 ▶ 承久の乱は幕府と朝廷の力関係にどのような影響を及ぼしたか【視点：つながり】</p> <p>考察</p> <p>.....</p>	<p>第5時 「鎌倉時代の文化と宗教」 ▶ 武士は鎌倉時代の仏像にどのような影響を及ぼしたか【視点：つながり】</p> <p>考察</p> <p>.....</p>	

私は.....の時点で武士の世の中が始まったと思います。  
なぜなら.....

カ 本時（全6時間中の第1時）

(ア) 本時の目標

- ・古代から中世の日本を概観し、学習前の武士の時代のイメージを明らかにする。
- ・武士が摂関家に仕え、地方へ土着する中で武士団として組織された過程を読み取る。

(イ) 本時の展開

時間	○ 学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 20分	○小学校での既習事項を確認する。 ・古代から中世の歴史人物を、順番に並べ替える。	・平清盛、源頼朝、源義経、北条政子の4人の顔イラストを掲示し、生徒と受け答えしながら授業者が並べ替える。 ・いつの間にか武士中心の世の中になったことを確認する。	
	○これからの学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○単元を見通した問いに対する答えを予想する。 ・個人での考察3分	・「単元見通シート」を配付し、使い方を確認する。 ・4人の顔イラストを並べ替えた図は消さず黒板に残し、予想が難しい生徒の参考にさせる。	アー① 古代から中世に移り変わった社会の変化の様子について関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 （「単元見通シート」への取り組みの様子と記述）
展開 25分	○武士の登場を教科書の図から読み取る。 ・教科書 p. 66 図 1 を見て、いつどこで武士が登場したのかを理解する。	・教科書 p. 66 図 1 を黒板に投影し、説明を加える。	
	○源満仲の年表から本時の問いの答えを読み取る。 ・個人での考察3分 ・4人班での考察3分 ・発表3分	・考察1（個人での考察）は授業ワークシートに、考察2（4人班での考察後）は「単元見通シート」にそれぞれ記入させる。 ・発表時には満仲の年表を黒板に投影し、生徒の答えが年表のどの部分を読み取ったものなのかを確認しながら進める。	ウー① 武士の台頭から政治への進出、武家政権の成立とその影響について、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。 （ワークシートの考察欄への記述）
まとめ 5分	○単元を見通した「問い」を再確認し、自分の考察が「問い」に正対した記述になっているか確認する。	・正対した記述例：地方武士団が朝廷に反乱を起こしている。 ・正対していない記述例：武士はまだ貴族に仕えている。	

## キ 成果と課題

本検証授業では、社会的な見方・考え方を働かせることができる単元を見通した「問い」を設定し、5回の授業を経て自分の考えをまとめられるよう単元全体を構造化することで、生徒の思考力、判断力、表現力等を高めようとした。

### (7) 成果

第6時で生徒に記述させた、単元を見通した「問い」に対する考察から、社会的な見方・考え方を働かせて判断していると読み取れる記述が学年168人中90人で見られた。ある生徒の「単元見通シート」の記述では、学習前には、

平清盛が武士で初めて天下をとったときだと思います。

という答えであったが、第6時には

私は、鎌倉幕府の成立の時点で武士中心の世の中が始まったと考えます。平清盛が天下をとったとき 藤原道長と同じように太政大臣になった ということは、まだ朝廷の下にいるということだと思います。鎌倉幕府ができたとき、組織のトップが将軍に変わった ということは朝廷よりも強くなって完全独立したということなので、このときに武士中心の世の中になったのだと思いました。

と変容していた。社会的な見方・考え方の一つである「諸事象の比較に関わる視点」を用いて考察していることが分かる。

また、別の生徒の「単元見通シート」の記述では、学習前には

鎌倉幕府が開かれたときだと思います。

という答えであったが、第6時には

私は、鎌倉幕府が後鳥羽上皇たちを倒した時点で武士中心の世の中が始まったと考えます。鎌倉幕府ができた時点で武士は独立したけれど、そのときはまだ東日本しか治めていなくて、全国が武士のものにはなっていなかった。しかし、承久の乱後に西日本まで勢力を広げることができ、朝廷を監視できるようにまできたことで、幕府は朝廷よりも力をもつようになった と言えると思います。

と変容していた。社会的な見方・考え方の一つである「諸事象のつながりに関わる視点」を用いて考察していることが分かる。

### (イ) 課題

第6時で生徒に記述させた、単元を見通した「問い」に対する考察において、学年168人中72人の生徒が、社会的な見方・考え方を働かせた考察が十分にできていなかった。

しかし、72人の「単元見通シート」をよく確認すると、毎授業の本時の「問い」に対する考察には、社会的な見方・考え方を働かせた答えを書けている生徒がいたことが分かった。このことから、第6時の単元を見通した「問い」への考察の前に、毎授業の本時の「問い」を活用して答えるとよいことを助言するなど、更なる支援が必要であった。

(3) 公民的分野

ア 単元名 (1) 私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方

イ 単元の目標

- ・よりよい集団をつくる意義や方法について関心をもち、意欲的に追究している。
- ・社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現することができる。
- ・実社会で起こる様々な対立を示した資料を適切に読み取り、考察に生かしている。
- ・社会的な見方・考え方の基礎となる、対立と合意、効率と公正等について理解する。

ウ 単元の評価規準

ア 社会的な事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的な事象についての知識・理解
①家族、学校、地域の自治会など、様々な集団における物事の決定の仕方やきまりを守ることの意味について関心をもち、意欲的に追究している。	①社会の一員として、所属する集団や所属員に関わる問題を解決する際、現代社会を捉える見方・考え方を基礎としての対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、結果を適切に表現している。	①提示された資料の中から、現代社会を捉える見方・考え方の基礎としての対立と合意、効率と公正などを理解するために役立つ情報を適切に選択して、読み取っている。	①決まりや取り決めが必要なことを理解し、その知識を身に付けている。 ②合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容の「公正」が必要であることを理解している。

エ 単元について

本単元は、中学校学習指導要領社会（平成 20 年 3 月）公民的分野の内容(1) 私たちと現代社会、イ 現代社会をとらえる見方や考え方に沿って設定した。本単元のねらいは、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することである。

本単元では、人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。その際、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任などに気付かせるようにする。

それを踏まえ、本検証授業での単元を見通した「問い」を、「集団生活が上手くいくヒケツは何だろう？」とした。単元を通して、家族内でのトラブルやマンションにおける住民間のトラブルを題材として、法教育の視点から、政治経済、国際社会に関する学習とのつながりを意識しつつ、公民的分野の導入部分という位置付けで授業を構成したものである。我々は社会的存在であり、大小様々な社会集団に属する。それぞれに役割が異なり、意思決定を行う中で対立が生じることは当然であり、その中で合意に向けて解決策を導き出すことが求められる。本単元では、家族という生徒にとって最も身近な社会集団での合意形成やマンションのトラブル解決といった、地域社会での合意形成を題材として扱った。合意を形成する過程ではルールといった取り決めがなされることがある。そのルールを決定

する際には効率と公正の視点が不可欠であり、皆が納得できるルールである必要がある。社会集団に大小はあれど、合意に至るまでの過程や結果については共通する視点がある。その視点を本単元を通して身に付けることで、今後学習する政治・経済、国際社会についての考察・構想を手助けし、生徒自身の現代社会における在り方への関心につなげたい。

オ 単元指導計画と評価計画

(7) 単元指導計画（5時間扱い）

	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
<b>単元を見通した問い</b> 「集団生活が上手くいくヒケツは何だろう？」			
第1時	自分にとって身近な社会集団が、どのような存在か。また、その社会集団（特に家族）の中で、合意を目指すことについて検討しながら、個人の尊厳と両性の本質的平等について理解する。	<b>本時の問い</b> 家族関係を良好に保つためのヒケツは？ 【現代社会の見方・考え方を働かせる際の視点】：両性の本質的平等、個人の尊厳、効率と公正 ・個人の尊厳と両性の本質的平等について理解する。 ・架空の家族を題材にし、家族内の家事分担について、効率と公正という視点から考察する。	エー① 個人の尊厳と両性の本質的平等について理解している。 （ワークシート） エー② 対立を解決するための視点として効率と公正を理解している。 （ワークシート）
第2時	生徒が日常生活の中で出合うトラブルを解決するルールを想定し、その適否を考えることを通して、ルールの機能と望ましいルールの要件について理解する。	<b>本時の問い</b> みんなが納得できるルールとはどのようなものか？① 【現代社会の見方・考え方を働かせる際の視点】：効率と公正、契約、個人の尊厳 ・日常生活の中で出合うトラブルを解決する事例からルールの適否について検討し、受け入れられるルールの要件を理解する。	ウー① ルールの事例から受け入れられるルールの要件について、読み取っている。 （ワークシート） エー① ルールの機能と望ましいルールの要件について理解している。 （ワークシート）
第3時	マンションの紛争を解決するルールを作ることをテーマに、トラブルを解決するまでのプロセスを多面的・多角的に考察する。	<b>本時の問い</b> マンションで起きたトラブルの解決策をつくろう！ 【現代社会の見方・考え方を働かせる際の視点】：効率と公正、個人の尊厳 ・マンションのトラブルについて、各住民の立場から自分たちの状況や事実に基づく主張やその理由を考え、それぞれの立場に立った解決策について考察する。	イー① マンションのトラブルについて、それぞれの立場で、事実に基づく主張をしている。 （ワークシート・発言）

第4時 (本時)	ルールが適正となる要件を基にして、前時で考えた解決策が適正かどうかを考える。また、効率と公正の視点を重視して皆が納得できる解決策は何かについて、他グループの主張を聞くことで深め、表現する。	<b>本時の問い</b> みんなが納得できるルールとはどのようなものか?② <b>【現代社会の見方・考え方を働かせる際の視点】:</b> 効率と公正、個人の尊厳 ・前時で作成した解決策について、以下の視点で評価・検討する。 「利益(不利益)を受けるのは?」 「ルールとして明確か?」 「解決策を作る過程に問題は?」 「解決策は、みんなに平等か?」	アー① トラブルを解決するためのルールづくり に、対話を通して積極的 に取り組んでいる。 (観察) イー① 解決策について、 効率と公正の視点から 多面的・多角的に考察 し、評価している。 (ワークシート・発言)
第5時	単元を見通した「問い」について、自分が所属している様々な社会集団について考えながら、人間は社会的存在であるということを理解し、現代社会の視点から考察する。	・我々は社会的存在で、大小様々な社会集団に属し、それぞれに役割を担っていることを理解する。 ・「単元見通シート」に書かれた記述内容について、仲間の意見を参考にしながら、修正を加える。 ・単元を見通した「問い」について、具体例を挙げて説明する。	イー① 様々な社会集団に属していることを理解した上で、その集団における自身の役割を考察し、表現している。 (ワークシート) イー① 単元を見通した「問い」について、これまでの学習を踏まえて考察し、発表している。 (ワークシート)

(イ) 本単元の「単元見通シート」

単元見通シート

単元名「現代社会を捉える枠組み」

単元の目標

- ①よりよい集団をつくるためのヒケツについて意欲的に追究する。
- ②皆が納得できるルールづくりや家族のあり方を通して、集団生活が上手くいくヒケツについて自分の意見もち表現する。
- ③現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みである「対立と合意」「効率と公正」について理解する。

単元を見通した問い 『集団生活が上手くいくヒケツは何だろう?』

【予想】

第1時 視点：効率と公正 両性の本質的平等 本時の問い 「家族関係を良好に保つためのヒケツは?」	第2時 視点：効率と公正、契約 個人の尊厳 本時の問い 「みんなが納得できるルールとはどのようなものだろうか?①」	第3、4時 視点：効率と公正、個人の尊厳 本時の問い 「みんなが納得できるルールとはどのようなものだろうか?②」
---	--	--

【単元を見通した問い】

---



---



---



---



---

評価 ( A ・ B ・ C )

3年 組 番 氏名

カ 本時 （全5時間中の第4時）

(ア) 本時の目標

- ・ルールが適正となる要件を基に、前時で考えた解決策が適正かどうかを考える。
- ・効率と公正の視点を重視して、皆が納得できる解決策はどのようなものかについて、他のグループの主張を聞くことによって深めるとともに、自分の言葉で表現する。

(イ) 本時の展開

	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○「単元見通シート」の第2時の記述内容について紹介し、本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決策がどのような理由で作成されたものであるかを確認する。</li> <li>・第2時に書いた生徒の記述から、二つ程度紹介し、本時終了後の変化を見ることを伝える。</li> </ul>	
展開 20分	本時の問い「みんなが納得できるルールとはどのようなものだろう?②」		
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A～Eの立場に分けたグループを編成し、それぞれ前時で作成した解決策について、理由を含めて説明する。</li> <li>○グループとしての解決策について、配布された「考える視点カード」を参考にしながらまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの立場の説明をワークシートに記入させる。一通り説明が終わった後、質疑応答を行う。</li> <li>・各班に「考える視点カード」を配布する。</li> <li>・検討する際、机間指導をしながらアドバイスを与える。</li> </ul>	アー① トラブルを解決するためのルールづくりを、対話を通して積極的に取り組んでいる。(観察)
<解決策を考えるための視点> ①手段の相当性 = 目的を実現するために適切な手段であるか? ②明確性 = そのルールはいろいろな解釈ができるのではないか? ③平等性 (公正さ) = 立場が変わってもその決定を受け入れられるか? ④手続きの公平性 = ルール作りに皆が参加し、ルールを作る過程に問題はないか? ⑤効率性 = 時間や空間などの使い方に無駄はないか?			
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの解決策を発表する。</li> <li>・それぞれの解決策を聞いた後、ルールが適正となる要件を確認しながら、自分の班と他の班の解決策を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで作成した解決策を、ホワイトボードに記入させる。</li> <li>・評価項目に沿って各班の解決策を評価する際、感覚的な評価のみにならないように、理由を考える時間を確保するように伝える。</li> </ul>	イー① 解決策について、効率と公正の視点から多面的・多角的に評価している。(ワークシート)

	<p>・評価の結果を発表し、なぜそのような結果になったか、班ごとに説明をする。 (他の班への評価のみ)</p>	<p>＜評価の項目＞ ①誰が読んでも同じように読み取ることができる。 ②解決策を決定する過程で、みんなが参加している。 ③自分の置かれている立場が代わっても受け入れることができる。 ④マンション問題を解決する目的を実現するのに適切な手段である。</p>	
まとめ 5分	<p>○本時の課題について、自分の考えをまとめる。</p>	<p>・これまでの学習を踏まえ、特に効率と公正の視点を重視しながらまとめよう指示する。 ・まとめの意見を「<u>単元見通シート</u>」に記入させ、回収・チェックを行い、次時の導入で活用する。</p>	<p>イー① 解決策について、効率と公正の視点から多面的・多角的に考察している。 (ワークシート)</p>

キ 成果と課題

(7) 成果

本検証授業では、単元を見通した「問い」を設定し、提示される構造化された本時の「問い」を追究するというプロセスで授業を展開した。その際、社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」の設定に重点を置くことで、生徒の思考力、判断力、表現力等を高めようとした。本単元において習得を目指す社会的な見方・考え方は、「効率と公正」、「個人の尊厳」が中心である。「単元見通シート」を作成し、家族の問題から始まり、マンションのトラブルまで、段階的に視野を広げ、社会的な見方・考え方を働かせることができるよう意図した授業を展開したことで、生徒の記述には次のような変容が見られた。

【「単元見通シート」の記述内容】 \*下線部や( )は授業者によるものである。

＜第1時＞家族の今の状況を、家族全員が把握して気を配るようにするとよいと思う。家族同士で互いを理解し、公正な立場で関わるのが大切。【個人の尊厳・公正】  
 ＜第2時＞不適切なルールを決めてしまうと、物事が上手く進まなかったり、不利益を受けてしまう人が出たりすることが分かった。自分にとって都合の良いルールではなく、「立場が逆だったらどう思うか」を頭に入れてルール作りをすることが必要だと思う。【機会・結果の公正】  
 ＜第3、4時＞立場を変えても受け入れられるかを意識すると、公平なルールを作りやすいのではないかと考えた。ただ、色々なことに気がつかいすぎるとルールが甘くなってしまい、本来の問題解決ができなくなってしまうので、バランスをとる難しさを感じた。不利益を受けるのは仕方がないことなのだから、その受ける量ができるだけ少なくなるよう心がけることが大切だと思う。【個人の尊厳・結果の公正】

＜第5時（単元のまとめ）＞  
 ルール決めをする際には、作業効率や時間の使い方にできるだけ無駄がないように（効率）、ルール決めに全員が参加できる、特定の人だけが不利益を被らないようにする（公正）という主に二つのことを意識するとより多くの人が納得できるルール作りにつながると思う。特に家族やマンションなど普段から関係が密接なケースでは、まず現状を確認し、その上でどのようなルールが必要なのかを考えないと、単純に利益、不利益だけを考えたルールになってしまうと思う。私が所属する部活動では・・・(略)。せっかく直接会ってコミュニケーションをとれるのだから、全員で会って話し合い、状況に合ったルール作りをすることで実行する際に起きる問題を減らすことができると思う。また、「ルールでこうだから」ではなく、お互いが思いやりの心をもって生活できるようにするのが結局一番大事なことだと感じた。私はこの授業を通して効率と公正のつり合いのとれたルールを作る難しさを知った。



「単元見通シート」のまとめで書かれた生徒の記述では、「効率と公正」の言葉が使われる一方で、意味や理解が不十分と判断できる文章がまとめの段階で見られた割合は、全体の84%であった（第3学年生徒90人中75人）。

しかし、前のページに掲載した生徒の記述（一人の生徒が単元を通して書いた記述をまとめたもの）に見られるように、自分自身の経験や現在の立場（学級、部活動、家庭など）に置き換えた具体的な場面を想定して、「効率と公正」について意見を述べている生徒が全体の65%であった。多くの生徒が用語の意味や理解が不十分ではあったが、「効率と公正」という用語を適切に活用して自分の意見を述べている生徒も見られた。

#### (イ) 課題

本検証授業を通して見えた課題は、以下の2点である。

第一に、現代社会の見方・考え方を十分に働かせていない生徒に対して、具体的な手だてを講じる必要があったことである。今後は、生徒が「単元見通シート」を記入する際に、現代社会の見方・考え方を働かせた視点を取り入れた記述ができるように助言を行うなどしたい。あわせて、各単元の最後の授業である単元を見通した「問い」へのまとめを行う際、それまでの各授業で記述した内容を振り返る場面を設定し、個々の記述内容が重点化された現代社会の見方・考え方を働かせた記述になるよう修正を加える活動を行う。単元を見通した「問い」や本時の「問い」をしっかりと踏まえながら、最後のまとめに取り組めるよう授業構成の工夫を行う必要がある。

第二に、「単元見通シート」の有効性を明確に実証できていない点である。本検証授業は一単元における結果を示したのみである。思考力、判断力、表現力等の育成は、長期的な学習の蓄積によって実現する。よって、今後は継続的に「単元見通シート」を活用した授業を展開し、大単元のまとめにおいて、本研究の取組が思考力、判断力、表現力等の育成に大きく寄与していることを実証することが求められる。

## VI 研究の成果

本研究の成果は以下のとおりである。

第一に、単元を見通した「問い」についてである。単元を見通した「問い」を立て、各時間において社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」を構造的に配置することで、授業者が単元全体の見通しをもち、意図的・計画的に思考力、判断力、表現力等を育成する学習を進めることができた。そして、各時間の「問い」に対する自分の考えが積み重なることで、単元を見通した「問い」に対する記述がより深い内容に変容した。単元のまとめ段階で、社会的な見方・考え方を働かせた、多面的・多角的な考察を確認することができ、「深い学び」を実現する機会となった。

第二に、「単元見通シート」の活用についてである。「単元見通シート」の活用により、以下の効果があることが分かった。

- ・単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定すること、生徒に社会的な見方・考え方を働かせて「問い」を解決させることが可能になった。
- ・単元を見通した「問い」と社会的な見方・考え方を働かせることができる「問い」の構造を可視化することができた。

・単元のねらい、学習の道筋、内容の関連性、考察・構想の視点が明確になり、生徒は自らの学びを捉えながら、次の学びへと向かうことができるようになった。

また、「単元見通シート」は、形成的評価や個人内評価を行う手段として有用であり、生徒の学習の履歴としても活用できる取組であった。まとめの段階での生徒の記述を分析すると、社会的事象について多面的・多角的に捉えた記述が見られ、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成につながることを実証することができた。

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）に、「単元など内容や時間のまとまりを見通して学習課題を設定」するとあるように、今後、単元を見通して授業を行うことが必須となる。授業者だけでなく、生徒も見通しをもって学習に臨んでいくため、ワークシート「単元見通シート」を基に、効果的な授業実践を行うことができた。

以上を踏まえ、本研究は新学習指導要領実施に向けた授業実践の土台となる研究であったと言える。

## VII 今後の課題

本研究の課題は以下の三点である。

第一は、本研究の中で、社会的な見方・考え方の優先性や順序性、関連性を考慮した十分な議論には至らなかったことである。今後は、この点についてより議論を深めていく必要がある。

第二は、中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）には、「『見方・考え方』を自在に働かせることができるようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。」とあるが、生徒が社会的な見方・考え方を自在に働かせられるまでには至らなかったことである。引き続き、生徒が社会的な見方・考え方を自在に働かせるような研究や授業実践を積み重ねていく必要がある。

第三は、カリキュラム設計についてである。年間指導計画や中学校 3 年間を見通した学習計画において、単元同士をどのように関連付け、思考力、判断力、表現力等の育成につなげていくかについて構造化するまでには至らなかった。本研究では個々の単元設計について具体的な議論をしてきたが、単元と単元をどのようにつなげるかは、授業者の裁量によるところが大きかった。本来、思考力、判断力、表現力等は一つの単元での育成は難しく、長期にわたる計画が必要となる。本研究では、検証授業の単元設計を中心に検討してきたので、今後は、年間指導計画や中学校 3 年間を見通した指導計画において単元設計を行うことにより、生徒の思考力、判断力、表現力等を更に伸ばすことができるだろう。

# 平成 30 年度 教育研究員名簿

## 中学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
台東区立御徒町台東中学校	教 諭	伊 藤 進
品川区立伊藤学園	主幹教諭	朝日 亮介
目黒区立目黒中央中学校	主幹教諭	波田野 貴之
練馬区立豊玉中学校	主任教諭	谷 信彦
足立区立鹿浜菜の花中学校	主任教諭	服部 匡彦
江戸川区立小岩第二中学校	主任教諭	吉田 洋一
江戸川区立南葛西第二中学校	主任教諭	龍田 珠美
八王子市立みなみ野中学校	主任教諭	◎山崎 晃司
府中市立府中第四中学校	主任教諭	岩渕 公輔
町田市立町田第一中学校	主任教諭	藤井 健一郎

◎世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
指導主事 田中 圭

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
中学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社